

【日 時】 平成 26 年 3 月 5 日

【訪問先】 並木中央小学校 酒井 宏校長

【概 要】 児童数 363 名 14 学級 各学年 2 学級 特別支援学級 2 組 教員数 20 名 職員 4 名

【視察報告】

1. 校長先生のモットー

『出会い、解こう』 人とのめぐり合い、その場所にいたからこそその出会い、偶然という名の必然が出会い。出会いから何を学ぶか、それが成長に繋がる。

2. 英語・国際教育の取り組み

外国籍の子供は少なく、国際教室は開講できない。国際交流ラウンジからカモメサポーターに来てもらっている。交通費のみのボランティアで午前中だけ。

3. 地域のボランティアの協力

みまもり会、読み聞かせボランティア、波縫い先生。老人会との昔遊び、七輪で火おこし、洗濯板で洗濯など。

学校運営協議会年間 4 回実施。並木連合の増田会長がキーマン。並木をふるさとにがテーマ。

企業の CSR 事業として三菱重工業へ見学体験。横浜市大医学部のインターンと児童の交流。南部市場と交流。

4. 地域との防災の取り組み

地域防災拠点なのに屋上にフェンスがなくて屋上に避難できない。手すり・外階段もない。津波の恐怖。近隣の 14 階建てのマンションに協力してもらい、高層マンションの 5 階以上への避難訓練を行った。

5. 道徳教育や郷土愛を育む取り組み

並木サマーフェスタなどでは、ステージを 1 時間もらい児童の発表の場を作ってもらっている。

30 年前の埋立地に出来た並木団地だが、親も並木第 2 や第 3 小学校出身という子供も増えてきている。

市大医学部は、赤ちゃん教室で沐浴やオムツ替えの指導を人形でを行い、子育ての意義を感じてもらっている。

6. 体力強化や部活動の取り組み

早朝練習で陸上競技を体験してもらったり、朝礼で独自の健康体操を行っている。

11 のクラブ活動があり、校内のドリームコンサートやサマーフェスタでの発表会がある。

7. 学校組織の強化・人材育成

文科省から国語科実践研究校の指定を受け、言語文化に親しむ、古典を暗誦する授業を実践している。

人前に立ってスピーチをしたり、暗誦する機会をたくさん作っている。

先生たちも熱心に取り組み、議論を重ね、共通目標に向かってまとまっている。

8. その他

国際交流ラウンジの留学生との交流を年間に 7 回程度続けている。

【所 感】

学区のほとんどが集合住宅という環境の中で、並木団地も入居が始まってから 30 年以上となり、成熟してきている。

初期の入居者は定年前後となっているが、その子供たちの世代で並木地区に住んでいる人は少ない。マンモス団地では、入居世代の分布などは都市計画の段階から検討すべきであった。極端な児童数の減少で、小学校の統合やクラス数の減少など様々な問題が生まれてきているがその対処は前例がなく難しい。

